

高齢者生活協同組合等と連携して、コミュニティ施設を運営

荒町商店街振興組合

機関名	荒町商店街振興組合			
所在地	宮城県仙台市若林区荒町215番地			
電話番号	0 2 2 - 2 2 2 - 8 7 1 0			
地域概要	(1)管内人口	100万人	(2)管内商店街数	15商店街
事業の対象となる 商店街の概要	(1)商店街数	1商店街	(2)会員数	104商店
	(3)空店舗率	20%	(4)大型店空き店舗数	0店
商店街の類型	1.超広域型商店街 2.広域型商店街 3.地域型商店街 4.近隣型商店街			

【事業名と実施年度】

平成14年度	コミュニティ施設活用商店街活性化事業	・高齢者交流スペース、 ・一時託児スペースの設置
	総事業費	4,400千円

【事業実施内容】

1. 背景

当商店街は、仙台駅から南へ1km、中心商店街と郊外にはさまれた車の通過地点に位置している。古くは仙台藩の御用商人が店を構える「御譜代（ごふだい）町」として栄え、戦後も戦災を免れたことで繁栄したが、周辺部に団地ができてスプロール化が進行し、店舗数が減少するなど、衰退がはじまった。

当地区は地下鉄の沿線で、学校、銀行、オフィスなどがある一方、昔の街並みが残っており、教育環境もよい。

このため、地域コミュニティの交流の場として、空き店舗を活用して子供の一時預かりや高齢者向け交流施設等コミュニティ施設を整備することにより、空き店舗の解消と少子高齢化への対応を図り、商店街に賑わいを創出することを目的に、本事業を実施した。

2. 事業内容

商店街の空き店舗を改修して整備し、コミュニティ施設「荒町GMOセンター」を設置した。GMOは元気な（G）、まち（M）、おこし（O）の頭文字をとって命名した。運営にあたっては宮城県高齢者生活協同組合と連携し、一般の高齢者や福祉施設利用高齢者の介護者のお休み処あるいは交流サロンとして各種ニーズに対応したほか、託児スペースを設置し一時預かりを行った。

（1）施設

荒町商店街のほぼ中央にあるビルの1階フロア（約100m²）

（2）実施した事業

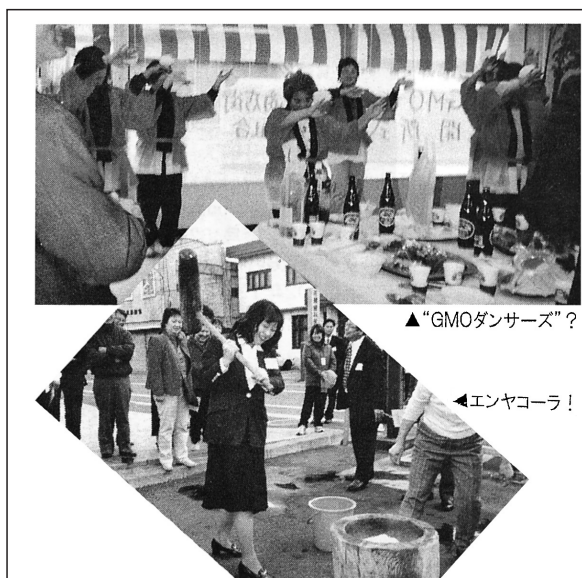
①オープニングイベント（平成14年11月16日）

荒町商店街振興組合

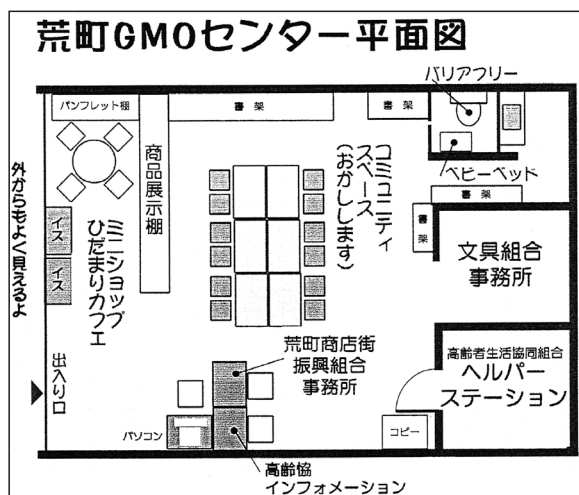
- ② 高齢者向け、商業者向けパソコン教室のほか、各種講座の実施
- ③ 産直、加工品フェア
- ④ 子育てサロン、一時預かり事業
- ⑤ 生産者との交流会、消費者との交流会



GMOセンター開所式当日の様子

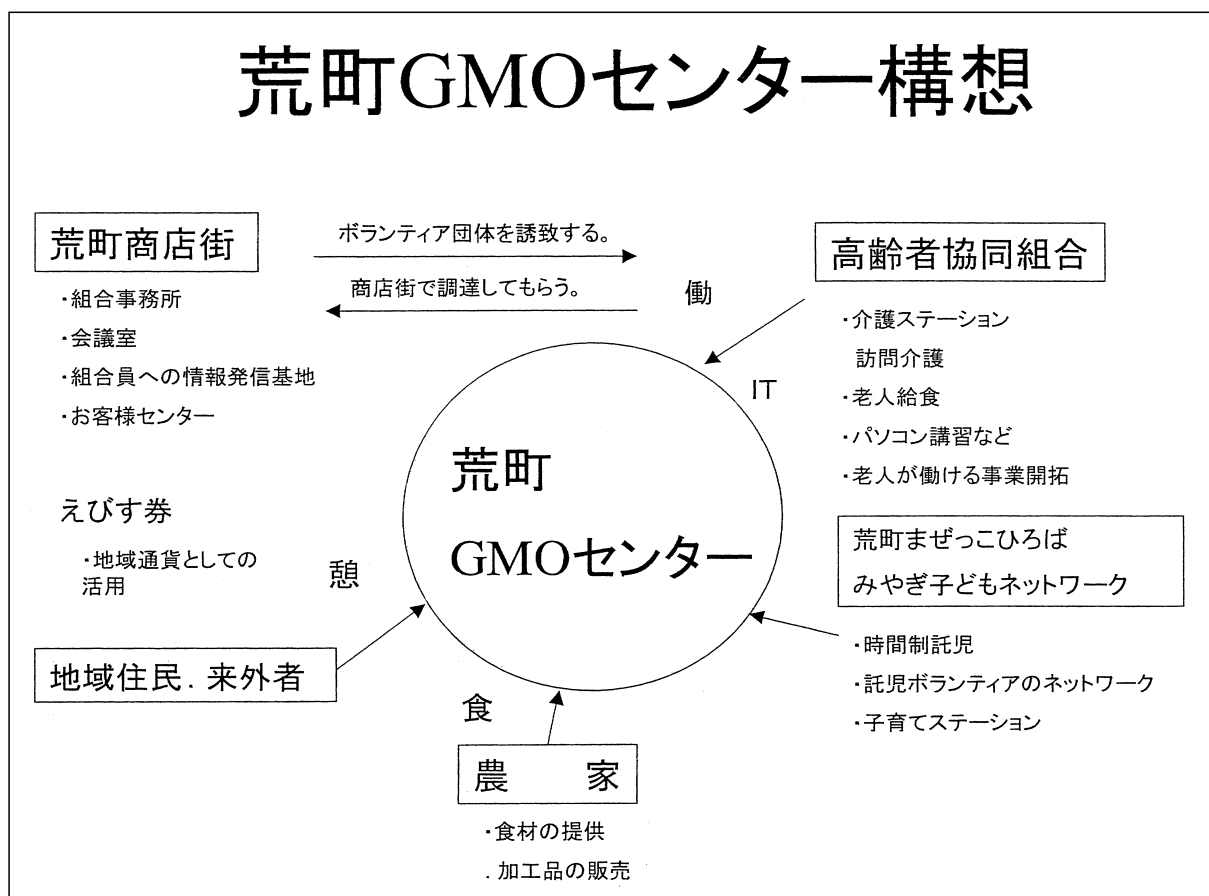


開所記念イベントの様子



GMOセンターの平面図

荒町GMOセンター構想



荒町GMOセンター構想 連想イメージ

【効 果】

- (1) 来街者の行動はさほど変わっていないが、組合員の意識は変わったと思う。今後の課題は、いかにお客さんを呼び込むかである。
- (2) 平成15年度も継続し漸く軌道に乗ってきたところであり、GMOセンターを活用した様々な事業も立ち上がってきている。

【課 題 ・ 反 省 点】

設備投資しても、ランニングコストの手当や、継続運営に不安がある。NPO団体と連携をはかっているが、なかなかうまくいっていない。

【教 訓】

- (1) どうやって長期的に維持していくのか。あまりに期待値的な読みでは失敗する。
- (2) 全員の合意はなかなか難しく、どうやって合意を得るかが鍵である。
- (3) お互いに信頼できるNPOと組むこと。商店街独自での事業運営は難しい。
- (4) いつでも自由に使えてみんなが集まれる場所が必要である。



荒町の活性化誓う

生協と商店街

GMOセンター開設

若林

若林区の荒町商店街振興組合（佐藤光政理事長）と県高齢者生活協同組合（青葉区、富田孝好理事長）は十六日、荒町バス停前のビルに「荒町GMOセンター」を開設した。写真。両団体はセンターを拠点に、協働して元気な街おこし事業に取り組む。

GMOは「元気な」「まち」「おこし」をローマ字に置き換え、頭文字を取って命名。商店街の事務所機能と県高齢者生活の活動拠点として設置し、福祉や雇用、IT（情報技術）などさまざまな分野でイベントや地域交流活動を行う。

約五十人が集まった開所式で、佐藤、富田両理事長は「商店街と生協が一緒になって、地域の役に立つ事業を展開していきたい」とあいさつ。それ

それが持つノウハウを出し合いながら、地域コミュニティーを活性化させていくことを誓った。

両団体はGMOセンター構想を一年前に立て、事業内容を検討してきた。今後は仙台市などから商店街コミュニティー活性化事業の補助金を受け、事業を展開する。

GMOセンター開設を伝える新聞記事